

5. 作業方法の改善

1. 作業方法の改善とは

現場の作業方法は、不変不動のものではなく、周囲の関連作業や状況、技術の進歩などの変化に応じてより安全に能率よく品質を確保するために、改善することである。

(1) 小さな気配りから

機械、設備、工法など大規模な作業ではなく、ここでいう改善は、材料の運搬、置場、作業の割り振り、手順など、今までよりも少しでも良いやり方はないかと、疑問を投げかけ、よく観察することからはじめる。

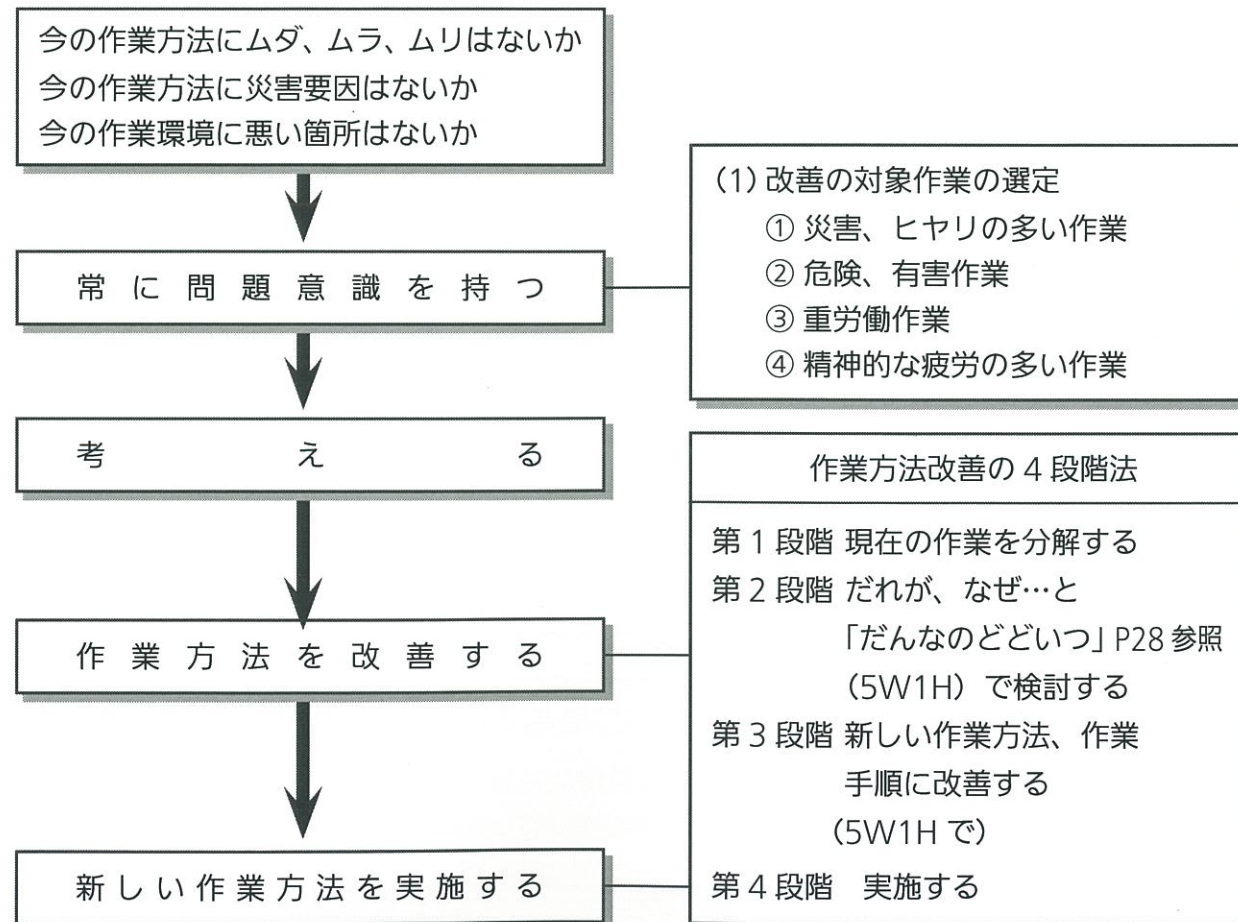
改善が必要なのはこんなとき

- ① ヒヤリ・ハット報告が多い時や災害・事故がおきてしまったとき。
- ② 手直しが多いとき。
- ③ 手間がかかるとき。
- ④ 作業にムダ、ムラ、ムリがあるとき。

(2) 一人よりもみんなで考える

改善は、一人で考えるよりも多勢の人（作業員、熟練者等）の経験（過去の事例、ヒヤリ報告）や発想（安全提案）等の情報を取り入れることで、効果が高まる。

2. 作業方法改善の流れ



1. 作業方法の改善とは

作業を安全に、能率よく、品質を確保するための阻害要因（ムダ、ムラ、ムリ）を改めること

※作業方法改善の目的

- ①労働災害の防止 ②労働意欲の向上 ③生産性の向上

(1) 小さな気配り

今やっている作業は、安全、品質、能率、原価の4つの条件を満たしたやり方か、また4つの条件が確保されているか、疑問を投げかける

(2) 一人よりもみんなで考える

経験や災害事例、問題の背景などについて、全員でその改善を考える

2. 作業方法改善の流れ

- 作業方法にムダ（能率の阻害）
ムラ（品質不良要因）
ムリ（危険要因）はないか
- 災害要因（災害発生）
（健康障害要因）はないか
- 作業環境（温熱・湿度・照明・レーザー光線・紫外線・赤外線・放射線・騒音・異常気圧・振動・有害ガス・一酸化炭素・粉じん・アスベスト・酸素欠乏等）に悪い箇所はないか



常に問題意識を持つ

- ・ 作業方法、作業環境に問題がないか疑ってみる
- ・ 疑わしいこと、疑わしいものについて妥協しない
- ・ 疑わしいこと、疑わしいものについて黙認しない

考える

- ・ 改善する（作業方法改善の4段階法の活用）
- ・ 実施する（実施する前に、上司の承認を得る・作業員に納得させる・関係者の了解を得る）、確認する（改善した結果の成否※について）

※ 成否とは・・・成果はあったか、十分でなかったか